

# 「てん茶」製造の動き続々

国内外で需要が高まっている抹茶の原料「てん茶」製造に向けた動きが、製茶業界で広がっている。鹿児島堀口製茶（志布志市、堀口泰久社長）は、海外市場を見据えた大規模なてん茶加工施設を新設。JAあおぞら（同市）は京都の茶商などと組み、「べにふうき」を使ったてん茶の開発に乗り出す。消費者のリーフ茶離れで価格低迷する中、茶の新たな需要拡大を目指す狙いだ。

設を新設。JAあおぞら（同市）は京都の茶商などと組み、「べにふうき」を使ったてん茶の開発に乗り出す。消費者のリーフ茶離れで価格低迷する中、茶の新たな需要拡大を目指す狙いだ。

## 抹茶原料、国内外で需要増

### 鹿児島堀口製茶 大型加工施設を新設 JAあおぞら べにふうき使い開発



鹿児島堀口製茶の新しい工場は11日に落成式があった。年間250トンのてん茶生産が可能になる。規模は国内最大級とみられる。



ラインを持ち、4月末に稼働を始める。生産規模は国内最大級とみられる。

需要が高まっている海外向けが大半で、一部は自社で抹茶に仕上げたてん茶を作っている。落葉式で堀口大輔常務は「海外市場を見据えた工場になっている。てん茶を作れるライ

●抹茶原料のてん茶を製造するラインを見学する関係者11日、志布志市有明の鹿児島堀口製茶。べにふうきを原料にしたてん茶開発、製造、販売で合意したJAあおぞらや京都の茶商ら。志布志市有明

「海外市場を見据えた工場になっている。てん茶を作れるライ

●抹茶原料のてん茶を製造するラインを見学する関係者11日、志布志市有明の鹿児島堀口製茶。べにふうきを原料にしたてん茶開発、製造、販売で合意したJAあおぞらや京都の茶商ら。志布志市有明

「海外市場を見据えた工場になっている。てん茶を作れるライ

てん茶を作れるライ

品質のものを作っていく。販売先は後からついてくる」と強調した。

（児美川勝）